

婦、婦含悲啼渡粟川、所與之鏡緒絕沈川、因名鏡渡、

〔儀式二〕踐祚大嘗祭儀

天皇即位之年、略○中爲令繡御帳帷并御鏡緒等、請內豎并左右近衛兵衛等、奏進於內裏、

〔大安寺伽藍緣起并流記資財帳〕合雜物貳拾捌種

鏡懸。絲。壹拾參條

〔萬葉集十一〕古今相聞往來歌寄物陳思

紐鏡能登香山、誰故君來座在、紐不開寐、

〔萬葉集四〕丹比真人笠麻呂下筑紫國時作歌

臣女乃匣爾乘有鏡成、見津乃濱邊爾狹丹頰相、紐解不離、吾妹兒爾戀乍居者、略○下

〔類聚名物考調度十〕水面鏡 ひとかゝみ

ひとかゝみは紐鏡にて、丸鏡もその外古鏡は、今の如く柄のなき故に、必ず裏に緒を付て取物故に、やがて紐鏡とは云ふ事にて、玉の緒と云ふが如くなるを、連歌の家にては、つらゝまたは水の鏡を水面鏡とするなり、是又轉訛の一説なり、

鏡種類  
以原實爲名

〔日本書紀神代一〕一書曰、伊弉諾尊曰、吾欲生御宙之珍子、乃以左手持白銅鏡、則有化出之神、是謂大日靈尊、右手持白銅鏡、則有化出之神、是謂月弓尊、

〔萬葉集八〕夏相聞大伴家持攀橘花贈坂上大嬢歌

氣緒爾吾念妹爾銅鏡清月夜爾、直一眼令觀麻而爾波、略○下

〔東宮舊事〕皇太子納妃、自著衣大鏡、尺八寸、略○中銅鏡二枚、

〔古事記上〕取天金山之鐵、而求鍛人天津麻羅、而麻羅二科伊斯許理度賣命令作鏡、略○下

〔皇大神宮儀式帳〕新宮造奉時行事并用物事